特定臨床指標２　【検査部】

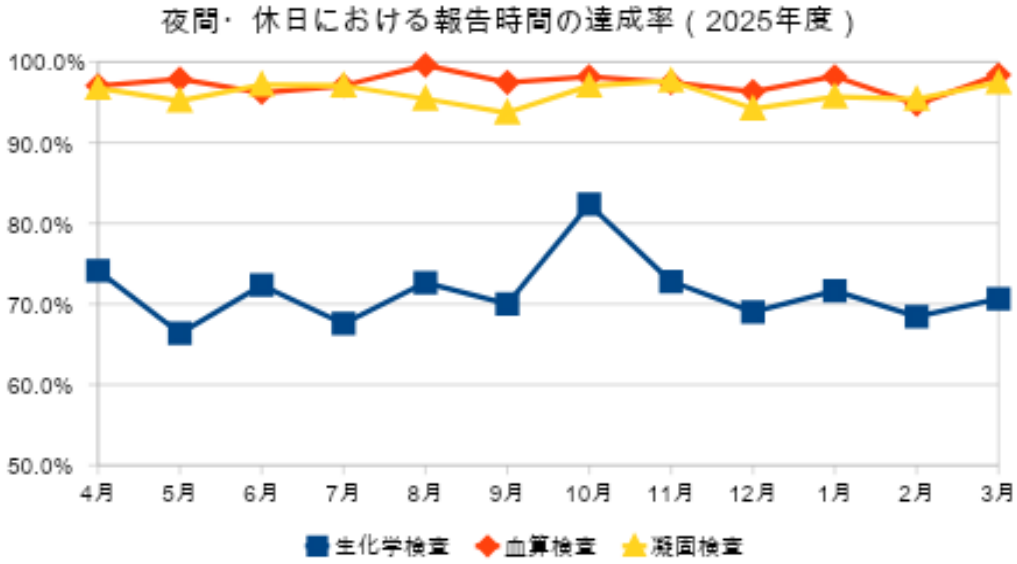
緊急検体検査結果報告時間　目標達成率

血液などの検体検査の結果が報告されるまでの時間を短縮することは、患者さんの診断や治療に直結する重要な診療支援の一つとなっております。特に、救急外来や入院患者さんの急変に対しては、迅速に検査を実施して結果を報告する必要があります。このような検査は緊急検査とよばれ、当検査部では夜間・休日問わず24時間体制で検査を実施しています。検査結果報告時間の短縮に向けて各検査に目標値を設定して、検査結果の報告に遅れが無いか全ての検査の報告時間をモニタリングしています。

夜間・休日における緊急検査報告時間の達成率

定義

分子：採血管受付から結果報告までの時間が目標値を達成した検体数
分母：緊急検査として提出された各検査の検体数



数値の定義・計算方法
目標値：生化学検査（30分以内）血算検査（15分以内）凝固検査（30分以内）
分子：採血管受付から結果報告までの時間が目標値を達成した検体数
分母：緊急検査として提出された各検査の検体数

P　PLAN
・検査種別ごとに、検査結果報告時間のモニタリング体制を継続する。
・全体のなかでも、特に生化学検査における目標達成率の向上を重要課題として設定する。

D　DO
・実際の業務において、検査種別ごとの結果報告時間を記録する。この記録作業は生化学検査を中心に実施する。
・検査結果報告時間の短縮に向けた情報などを、検査部内で積極的に共有する。

C　CHECK
・記録したデータをもとに、検査種別ごとに目標値（生化学・凝固は30分、血算は15分）を超えてしまった原因を解析する。この解析も生化学検査を重点的に行う。
・目標値を超える原因となった事象について、検査部内の要因によるものか、検査部外の要因によるものかを分けて調査する。

A　ACT
・一時的な取り組みで終わらせず、検査種別ごとのモニタリングを継続して行う。
・調査から判明した課題を解決するため、検体の取り扱いについて各職種に必要な学習機会（E-learningなど）を提供し、業務改善を図る。

■2025年度　実施内容と評価

実施内容

　緊急検体検査（生化学、血算、凝固検査）における報告時間の遅延要因を調査し、検体の品質確保および再採血防止を目的に以下の施策を実施した。教育啓発活動の実施（2025年8月）：検査部主催のE-learning「検査全般に関わるQ&A」を実施。看護師の受講率は84.2％に達した。事例共有と注意喚起（2025年12月）：「輸液混入」や「シリンジ採血時の混和不足」に起因する再採血事例を具体的にまとめ、院内メールにて周知・啓発を行った。

評価

・全体評価：全項目において前年度を上回る達成率を記録した。他施設データと比較しても良好な水準を維持している。
・個別評価：特に生化学検査において、数値としては微増に留まるものの着実な改善が見られた。これは、E-learningによる知識の底上げと、具体的な不適切事例（輸液混入等）の周知が、現場の採血手技に対する意識向上に寄与した結果と考えられる。